元NHK平野さん 歴史や朗読との違い紹介

「蜘蛛の糸」迫真の語り

行田で講演

公益財団法人忍郷友会（松平忠昌会長）は、行田市で読書推進実行委員会の第15回記念講演会を開いた。名作や名文を暗記して語る「語り部・かたりすと」として活躍する元ＮＨＫキャスターの平野啓子さんが「語りと朗読と読み聞かせ」と題して講演。語りの歴史や朗読との違いなどを紹介。熱のこもった迫真の語りを披露し、約210人の来場者を魅了した。（三宅芳樹）

実演を交えながら語りについて話す平野啓子さん＝行田市持田の「ペルヴィ アイトピア」

平野さんは身ぶり手ぶりを交えながら、朗読と語りの違いを説明。「朗読は書かれている内容や登場人物の心情を的確に表そうと読み手が努力し、声で忠実に伝えるもの。語りは、誰が書いた文章であっても自分の心の中に刻み付けて、自分の心の表現として伝える。同じ文章でも似て非なる世界。それぞれに素晴らしさがあり、特徴がある」と語った。

語りの歴史では「紙が貴重で文字すらあまりなかった古代には、語り部の存在が国の職業として認められ、国の大事な事業が人の口から口へと伝えられていた」と述べ、日本最古の歴史書「古事記」に記された日本神話を分かりやすく紹介。初舞台で上演した芥川龍之介の「蜘蛛の糸」の語りも熱演し、会場から大きな拍手が送られた。

平野さんは行田市と縁が深く、2005～08年に市教委主催の「小学生芸術劇場」で、市内の全小学5年生を対象にした太宰治の「走れメロス」の舞台で好評を博した。

「行田は第2のふるさと。ドラマ『陸王』で行田の文字を見たときは感慨深かった」と「行田愛」を口にした平野さん。「文豪による珠玉の文章を声に出すと、人の心を打つ素晴らしい音色になる。語り伝えることの大切さを、これからも伝えていきたい」と話していた。